

福島第一原子力発電所 測定・確認用設備B系統から採取したALPS処理水の分析結果と2024年度第6回ALPS処理水海洋放出の開始予定日

< 参 考 資 料 >
2024年10月15日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- ALPS処理水について、2024年度第6回放出に向けたG4南エリア A 群から測定・確認用設備B群への移送を8月23日に完了しました。また、8月28日から測定・確認用設備B群の循環・攪拌運転を実施し、9月4日に試料採取を行い、採取した試料の分析を行っています。

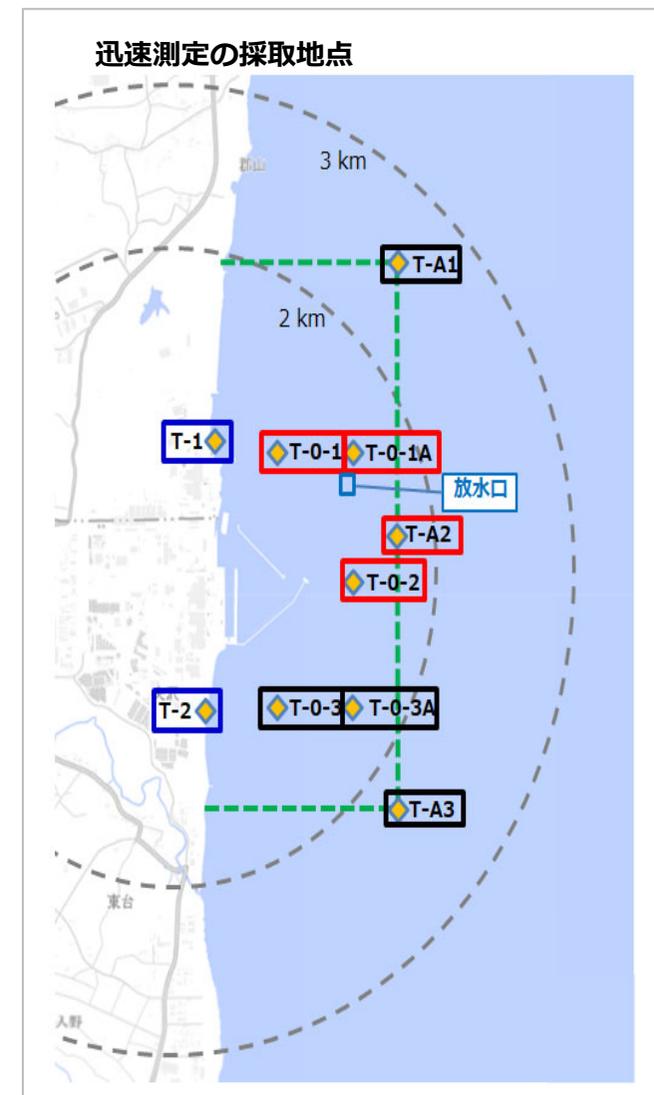
<10月14日までにお知らせ済み>

- 採取した試料の分析結果から、放出基準を満足していることを確認しました。
 - ① 測定・評価対象核種(30核種):告示濃度比総和「0.083」(1未満を確認)
 - ② トリチウム:31万Bq/ℓ(100万Bq/ℓ未満を確認)
 - ③ 自主的に有意に存在していないことを確認している核種(38核種):全ての核種で有意な存在なし
 - ④ 一般水質(自主的に水質に異常のないことを確認)(44項目):基準値を満足
- 外部機関(化研)の測定結果※も当社同様、放出基準を満足していることを確認しました。これらを踏まえ、10月17日からALPS処理水の海洋放出開始を予定しています。
- ALPS処理水は、トリチウム濃度の低いものから放出しています。これまで希釈前トリチウム濃度13万～28万Bq/ℓのALPS処理水を放出しており、今回は希釈前トリチウム濃度が31万Bq/ℓとなります。想定している希釈後のトリチウム濃度は約420Bq/ℓで、国の規制基準 6万Bq/ℓ、WHO飲料水基準 1万Bq/ℓ、政府方針で定められた1,500Bq/ℓに比べて十分に低い値となります。
- また、周辺海域で実施している迅速測定では、過去最高値である33Bq/ℓを超え、数十Bq/ℓとなる分析結果も想定されますが、放出停止判断レベル(700Bq/ℓ)及び調査レベル(350Bq/ℓ)と比べて低いことを確認してまいります。
- 引き続き、安全な海洋放出を安定的に実施できるよう緊張感を持って取り組んでまいります。

※ ①測定・評価対象核種(30核種)、②トリチウム、③自主的に有意に存在していないことを確認している核種(38核種)を測定

参考：これまでの放出における「希釈前トリチウム濃度」「希釈後トリチウム濃度」
「迅速測定の実験結果における最高値,採取地点」

管理番号※1	希釈前トリチウム濃度	希釈後トリチウム濃度	迅速測定の実験結果※3 (最高値,採取地点)	放出時期
23-1-1	14万Bq/㍗	160～200Bq/㍗	10Bq/㍗, T-0-1A	8/24～9/11
23-2-2	14万Bq/㍗	150～170Bq/㍗	22Bq/㍗, T-0-1A	10/5～10/23
23-3-3	13万Bq/㍗	150～180Bq/㍗	11Bq/㍗, T-0-1A	11/2～11/20
23-4-4	17万Bq/㍗	190～230Bq/㍗	16Bq/㍗, T-0-1A	2/28～3/17
24-1-5	19万Bq/㍗	210～240Bq/㍗	29Bq/㍗, T-0-1A	4/19～5/7
24-2-6	17万Bq/㍗	180～210Bq/㍗	7.7Bq/㍗, T-0-2	5/17～6/4
24-3-7	17万Bq/㍗	200～250Bq/㍗	18Bq/㍗, T-0-1A	6/28～7/16
24-4-8	20万Bq/㍗	220～240Bq/㍗	9.0Bq/㍗, T-0-1A	8/7～8/25
24-5-9	28万Bq/㍗	310～370Bq/㍗	33Bq/㍗, T-0-1A※2	9/26～10/14



※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「24-1-5」は24年度第1回放出かつ通算第5回放出を表す
 ※2 9/26～10/14の期間中における採取データ
 ※3 迅速に結果を得る測定は、指標を超えるかどうかの視点で確認するものであって濃度が高い、低いといった議論を行うような分析ではない